おんがく広場 第30号
令和2年(2020)5月7日(木)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

管楽器奏者はどうしているの？

江 川 善 裕

発行責任者の加藤さんから「管楽器奏者はどうしているの？」と訊かれましたので、身近なところを話題に書いてみます。

私も含めて家で音を出せる人は練習しておりますが、私が指導している市民吹奏楽団のひとつを例にすると団員の半数は家では練習できません。「河原などに行って吹けばよいのでは？」とも思いますが、砂埃など楽器に決してよい環境ではないようです。

一方、テレワークによる演奏が頻繁に YouTube にアップされていますが、あれは技術者がいて為せることです。私自身も多重録音を試しに行い、うまくいけばほかのメンバーを誘おうかと思いましたが、なかなかうまくいきません。試行錯誤のうえ、なんとかまとまったものの、素人にとってはかなりの労力です。逆に言えば、みんなで集って合わせることの大切さをあらためて知らされました。人間は結局アナログだからでしょうね。一緒に合わせるということは（カメラやマイクに向かっての一方通行ではなく）お互いに他者の音や息遣いを聴き合いながら歩み寄ることができ、それが魅力ということなのです。

もう一つ指導している市民吹奏楽団も対策をあれこれオンライン会議で検討していますが、会場が使えてはじめて解決することばかりです。なので、公共施設側（自治体）は利用する際の（三密にならない）「新しいガイドライン」を作って、以前のように貸し出しをしてほしいのです。そうしないと、本当に（新型コロナウィルスよりも先に）市民の文化活動のほうが終息してしまいます。

きょうまで1ヶ月間の自粛生活を営んできました（実質2ヶ月以上の自粛生活）。加えて5月末までの緊急事態宣言延長。そこでも「人と人の接触を極力8割削減に向けて」と言います。本来、人と人との関係は「膝を交える」ことが重要だったはず。そういう意味で、音楽活動は人間の本質的な行動な訳です。

「コロナの時代の新たな日常」と言いますが、それは人間らしさをなくす日常なのではないかと感じています。ウィルス（病気も）を完全にゼロにするのは不可能なのですから、クオリティ・オブ・ライフ（QOL＝生活の質）を維持する考え方が必要だと思います。もちろん、個人でできる予防対策をきちんと日常的に行って、QOL を選択する覚悟は必要です。

私が参加したテレワーク合奏

◆熊谷吹奏楽団「うちで踊ろう」

https://youtu.be/1OElH5G4vjA

大分集まってきましたが、まだ多少演奏者が偏っています。元団員と一緒にできるのもテレワークならではです。日々進化中。

次の企画としてはパプリカ↓も始めています。関係者の皆さん、動画募集中ですよ。

https://youtu.be/_RmpiQDgymY

◆私自身の多重録音「うちで踊ろう」

https://youtu.be/A8H5kGs7vCE

サックス5重奏の多重録音でコラボしてみた。うまくいけばほかのメンバーを誘ってテレワークアンサンブルと思いましたが、なかなかうまくいきませんでした。試行錯誤のうえ、なんとかまとまったのがこの動画。

◆PRO WiND 023「月山の雪」

https://youtu.be/eAUDi1CBESw

「山形にゆかりのある人で、山形のために、山形で演奏会をしたい。音楽で山形を盛り上げよう！」という想いのもとに発足した山形ゆかりの音楽家による PRO WiND 023 でのテレワーク大合奏！

今回初となるテレワークで挑んだのは、作詞:西条八十作詞、古関裕而作曲「**山形県スポーツ県民歌『月山の雪』**」。このスポーツ県民歌は、昭和 23 年(1948)山形県で開催された「第 32 回全日本陸上競技選手権大会」を契機に制作され、数多くのスポーツ関連行事で愛唱されて来ました。

指揮は、当団発足時からの指揮者**大井剛史**氏。今回演奏した吹奏楽編曲は、当団チューバ奏者である**仁藤雄貴**氏によるもの。PRO WiND 023 メンバーによる演奏と合唱！もお楽しみください。

PRO WiND 023 ホームページ http://prowind023.jp

【 江川善裕 Profile 】

山形県米沢市出身。武蔵野音楽大学卒。米国・ノースウエスタン大学大学院修士課程修了。フリーのサックス奏者・講師を経て、全日本吹奏楽連盟事務局主事、全日本合唱連盟事務局次長を歴任。現在、国際合唱連合理事。日本サクソフォーン協会会員。サクソフォーン四重奏団「J-SAXER QUARTET」主宰。1990 年から鷲宮ウインドアンサンブル創設指揮者。2013 年から熊谷吹奏楽団副音楽監督。2018 年から PRO WiND 023 メンバー。

《発行責任者より『**月山の雪**』にひとこと》

私事ながら、山形県出身の我が女房、子どもの頃から親しんだ『**月山の雪**』は、日本中みんな知っているものと思っていたらしい。なんでこんなにいい歌知らないんだろう…(‘;’)

♪ 月山の雪　紅(くれない)そめて　朗(ほが)らに明けゆく　新生日本
興(おこ)すは力　若き力　今さきがけて　我ら起(た)つ
スポーツ山形　フレーフレー　ヒップヒップフレー

でも、歌詞に月山や最上川は出てくるけど、蔵王が出てこないのはなぜ…と首を傾げています。女房の故郷は月山に近いからまぁいいかなというところでしょうか。出身校の県立山形西高校の校歌には、蔵王も千歳山も最上川も出てくるのにとの仰せです。

「ヒップヒップフレー」とは耳慣れないことば、県民にもあまり知らていないようです。これは「お尻を振れ～」ではなく、"Hip-hip-Hooray"「ヒップヒップフーレイ」とのこと。この掛け声は 19 世紀のイングランドで乾杯のときに用いられたようです。"Hip"は注意を引く感嘆詞。

https://www.pref.yamagata.jp/ou/kyoiku/700021/publicfolder20060308408168968/sportskenminka.mp3
（演奏：東海大山形高校吹奏楽部／斉唱：県立山形西高校音楽部・県立山形南高校吹奏楽部）

この曲は、J リーグのモンテディオ山形が勝利したときに歌う応援歌に使われています。「スポーツ山形」を「モンテディオ山形」に替えています。以来、一度姿を消していた『**月山の雪**』が盛んに歌われるようになってきたとのことです。

◇クッキー会のご紹介◇

クッキー会は、埼玉県久喜市中心の音楽家や合唱人で構成する緩い集まりです。コアメンバーは、江川善裕、南めぐみ、新祖 章、星野英明、加藤良一の 5 名。これに加え都合のつく人が加わって音楽談議に花を咲かせています。

（左から）南めぐみ、南航平、江川善裕、加藤良一、新祖 章、星野英明